



都市部の土地不足や価格の高騰、少人数世帯の増加といった社会的背景の中で、「家の本質的な価値」とは何かが改めて問われています。特に今の若者世代は、ライフスタイルの多様化や経済的な現実を背景に、従来の住宅観にとらわれない選択を求めています。現代の暮らしに必要なものを見極め、不要なものを削ぎ落とすことで得られる豊かさ——それが「Model so」(素の家)の提案です。「less is more」をコンセプトに、日本の木造建築を進化させた新しい住空間を提供します。限られた土地でも、コンパクトながら開放的な空間設計を実現し、より豊かで自由な暮らしを可能にします。

天井高2.9メートル	less is more	高性能住宅
<p>自己肯定感の上がる家</p>	<p>シンプル、コンパクト。玄関をなくし、2fは完全無柱空間</p>	<p>耐震性最高ランク 省エネ性ZEH基準</p>

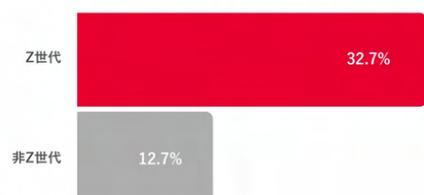
Z世代「玄関はなくても問題ない」32.7%で非Z世代の約2.6倍

近年、若い世代を中心に「住まいに求める価値観」が変化しています。特にZ世代においては、全体的にミニマル志向の傾向が確認されました。一方で、生活必需品よりも「映え」や仲間内で楽しむための設備(例：シアタールーム、屋上、ウォーターサーバー)への関心が高まっていることがわかりました。実際に「玄関はなくても問題ない」と考えるZ世代は32.7%と、非Z世代の約2.6倍に上るという調査結果が発表されました。従来の住宅設計の「当たり前」が今後変わっていく兆しと考えられます。

都市部を中心に住宅の床面積が限られる中で、玄関という“滞在時間の短い”場所を広くとらず、居住空間を優先する設計思想の高まりや、内と外の境界を曖昧にし、床や壁材を統一することで空間全体をより広く、モダンに見せる映えのトレンドが影響していると考えられます。

Z世代の約1/3が玄関不要

【玄関「なくても問題ない/無駄だと思う」回答割合】



Z世代「玄関はなくても問題ない」32.7%で非Z世代の約2.6倍。次世代の住宅設備ニーズ調査

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000079627.html>

プリフィックス注文住宅PlusMeの新モデル 「Model so」の4つの特徴



Point 1 天井高2.9メートル

国内の住宅の天井高は多くが2.4m。2.9mは、日本の木造住宅の標準内で最高位。
住宅は平面（平方メートル）ではなく、立体（立方メートル）で捉える時代です。



天井が高いとカテドラル効果で自己肯定感が高まる

Point 2 less is more

「Model so」では、必要性和 unnecessary性を考えました。
シンプル、コンパクト。玄関をなくし、2fは完全無柱空間を実現。柔軟なレイアウトが可能になり、ライフスタイルの変化にも適応します。



2fは完全無柱空間

Point 3 省エネ基準を満たした住宅

2025年に省エネ基準が変わります。建てる家が新ルールに対応しているかは、売却時の資産価値にも影響します。

建てて数年で「時代遅れ」になってしまうのでは、非常にもったいない。

PlusMeは、現時点ですでに2030年の足切りラインとなるZEH基準をクリアした最先端の省エネ住宅です。



- ・ 30分ごとに換気。フィルター付き24時間熱交換換気システム
- ・ 防火性、遮音性、吸音性に優れた「セルロースファイバー」
- ・ 断熱効果とUVカット「Low-Eペアガラス」の窓
- ・ 有害なホルムアルデヒドを吸収「ハイクリーンボード」

Point 4 構造区画内主要柱直下率100%、耐震等級3

構造区画内主要柱直下率100%とは、「上の柱の真下に下の柱がある」構造。

実は、多くの住宅は「希望の間取り」を優先し、構造区画内主要柱直下率50%以上を目安に設計されています。これでは、耐震性は下がり、無駄な柱もでき、コストが上がってしまいます。

プラスミーは「柱の位置」→「間取り」の通常と真逆の発送で、構造的な強度を確保しつつ原価を下げています。

耐震等級3：耐震性の最高ランク。建築基準法の1.5倍相当。震度6～7の地震後も住み続けることができるレベル



代表取締役
乃村 一政 (ノムラ カズマサ) 宅地建物取引士

2010年にSOUSEI株式会社を創業、住宅ビルダー事業を開始し、地域No.1ビルダーへ成長（1期目24棟、2期目42棟受注と急成長）
その後2社の住宅ITスタートアップ創業を経て、株式会社マイホーム創業。

note： お笑い芸人だった僕が、前澤ファンドから出資を受け「最高の家」をつくる理由



代表取締役
金箱 遼 (カネバコ リョウ) エンジニア、UXデザイナー

2009年中央大学卒業後、株式会社TKCに入社。その後アライドアーキテクト株式会社、株式会社マネーフォワードにて東証マザーズ上場を経験。
2021年3月株式会社マイホーム代表取締役に就任。

note： 超慎重派の僕がスタートアップ起業に挑戦するまで



佐藤実 (サイトウ ミノル) PlusMe 構造監修

一級建築士。2010年東京大学大学院修了後、2010年「構造塾」を設立、木質構造に関するセミナー、構造計算技術者育成講座を開催、構造計算サポート業務を行っている。
2019年現在全国28会場、会員数は1,500社。



兼子智美 (カネコ トモミ) プラン・デザイン監修

一級建築士。新卒で大手ハウスメーカーに勤務し、豊富な設計経験を積んだ後、独立してくらしえ合同会社を設立。家づくりに関するリアルな情報をInstagramを中心に発信し、多くの理想の住まいづくりサポート。
2025年4月時点でフォロワー数は1.9万人を突破。